

二十一ページより続き

(1) 1、企画展
「近代日

四月十一日～五月十日

公演「交響樂の夕べ」が行われ、また

卷之三

歴史資料館においては、福島県の災害資料展、三二二二石文書石記録による

資料展などとして古文書古説録にみる
を開催するなど、芸術の秋を盛りあげ
ることになつてゐる。

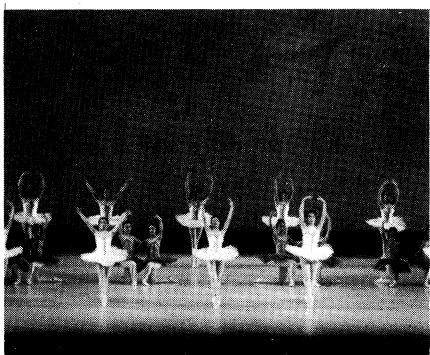
今年度前半には、少年劇場・親子劇場・家庭劇場と幼・児童・生徒向けの舞台芸術が多く、感動を残して終了した。

舞台芸術が多くの恩恵を残して終了したのをはじめ、各種の講座・普及事業などが好評を博した。

十二、福島県立美術館

昭和五十九年七月に開館した福島県立美術館は、県民に親しまれる文化施設として着実な歩みを示している。

昭和六十二年度の美術館事業の概要
および予定は次のとおりである。



年ごとに充実する県芸術祭

昭和五十九年七月に開

立美術館は、県民に親しまれる文化施設として着実な歩みを示している。

昭和六十二年度の美術館事業の概要
および予定は次のとおりである。

卷之三

卷之三

術祭

樂芸行

る県

実す

二充

二〇二

年ご

卷之三

卷之三

(1) 「近代日本水彩画展」
藤次郎、中西利雄ら明治から戦前に活躍した画家たちの水彩画の名作約三百点を展示了。

(2) 「ピカソ展」
五月十六日～六月二十一日

(3) 「第二回具象絵画ビエンナーレ展」
日本未公開の作品（油彩・素描・陶器）百五十点余を展示了。

(4) 「大原美術館所蔵品展」
昭和六十年度の第一回展に続き、わが国の現代洋画における多彩な具象的表現の現況を二十五名の作家、約八十点の作品により紹介した。

(5) 「大山忠作展」
八月一日～九月六日

大原美術館が所蔵する内外の現代美術作品に焦点を当て、カンディンスキイからウォーホルに至る二十世紀の多様な美術を紹介した。

九月十二日～十月十一日
二本松市出身で、現代日本画壇を代表する大山忠作の画業を、初期から今日に至る全画業の代表作を中心とした約八十点により回顧する。

(6) 「現代東北美術の状況展Ⅱ」
十月十七日～十一月二十三日
日本画・洋画・版画・彫刻の四分野

物館は、二年目を迎え、常設展・企画展を中心に県民に親しまれる博物館として定着し、入館者数も予想をはるかに超えています。

(7) 「今日の北欧デザイン展」
二月十三日～三月二十一日
今日、幅広い分野で世界中に大きな影響を与える北欧のデザインを、特に私たちの生活に密着した機能性に焦点を当て紹介する。

2、常設展
美術館の収蔵美術品等を系統的に展示し、三か月に一度の展示替えを行うなど、作品の保全を図りながら鑑賞に供している。また、拡大常設展では、テーマに沿って収蔵品を追加紹介していく。

3、収集
近代美術の流れを展望するにふさわしい作品の充実に努力しており、本年度は、村山槐多、木村莊八、浜口陽三、オノサトトシノブ等の作品を収集している。

十三、福島県立博物館
昨年の十月十八日に開館した県立博物館は、二年目を迎え、常設展・企画展を中心に県民に親しまれる博物館として定着し、入館者数も予想をはるかに超えています。

に上回っている。

昭和六十二年度の事業概要は次のとおりである。

- 1、常設展
本県の歴史の流れを時系列に沿つて原始・古代・中世・近世・近現代と展示する歴史展示と、歴史の舞台となつた自然と人間のかかわりをテーマとする展示によつて構成されている。
- 2、部門展
自然・考古・歴史美術・民俗の各々独立した展示により構成されている。テーマ性の高い専門的展示を行い、常設展示を補い理解を深めることを目ざしている。
- 3、企画展
 - (1) 「福島の顔」
四月十八日～六月十四日
顔を表現した造形物を集めるこより、時代を超えた顔に対する思い入れや顔を媒介とする人間行動の一侧面を明らかにした。
 - (2) 「植物化石」
七月十八日～九月十五日
二十億年をこえる植物の歴史を豊富な化石資料で再現し、発展の多様性や地球環境とのかかわりを考えてさせるものであった。
 - (3) 「会津の仏像」
八月十七日～十二月十三日
県内三地方のうち会津地方の仏像を